

日本社会科教育学会
第 76 回全国研究大会(神奈川大会)のご案内

日本社会科教育学会会長 唐木清志
全国研究大会実行委員長 重松克也

第 76 回全国研究大会を開催致します。現在、国家主義の台頭、急速なグローバル化、終結が見通せない国際紛争の勃発、「ポスト真実時代」とも称される高度情報化社会の進展等々、社会の多元化が様々な形で社会的課題として表出しています。こうした中で、社会科教育の果たす役割はますます大きくなっているといえます。また次期学習指導要領改訂に向けて文部科学省中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理」(2025 年 9 月 27 日)が出され、深い学びを具体化することはこれまで以上に喫緊の課題となっています。こうした中で今回の大会では、主題を「多元化社会における社会科教育のあり方」と設定しました。

シンポジウムでは様々な社会科教育研究・実践の中で特に Education for Sustainable Development (以下、ESD と略記)に焦点づけて、これまでの成果と課題を議論し、今後の社会科教育のあり方を展望する上での示唆を得たいと考えています。先行きの見通せない社会の中で生きていく子どもたちにとって必要な社会科のあり方について、皆さんと考えたいと思います。

1. 大会主題 多元化社会における社会科教育のあり方
2. 期 日 2026(令和 8)年 11 月 14 日(土)・15 日(日)
3. 会 場 横浜国立大学教育学部棟
4. 主 催 日本社会科教育学会 日本教育大学協会全国社会科部門
5. 後 援 神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、相模原市教育委員会
6. 日程

第 1 日目 11 月 14 日(土)

8:00	9:00	12:00	13:30	16:00	16:15	17:15
受付	自由研究発表会 I	昼 食 評議員会	シンポジウム	休憩		総会

第 2 日目 11 月 15 日(日)

8:00	9:00	12:00	13:00	15:30
受付	自由研究発表会 II	昼 食	課題研究発表会	

1 次案内では課題研究発表会終了時刻を 16:30 と記載しておりましたが、15:30 に訂正いたします。

※自由研究発表の発表時間は 20 分以内、質疑応答 10 分以内の計 30 分以内です。

各分科会の発表順・発表時間は次の通りです。発表者、司会者共に時間厳守にご協力ください。

- (1) 9:00~9:30 (2) 9:30~10:00 (3) 10:00~10:30
(4) 10:30~11:00 (5) 11:00~11:30 (6) 11:30~12:00

第1日目 2026(令和8)年11月14日(土)

自由研究発表Ⅰ

9:00~12:00

自由研究発表Ⅰ・第1分科会

講義棟6号館102室

司会者 元・東京学芸大学 荒井 正剛
元・お茶の水女子大学附属小学校 岡田 泰孝

(1) 小学校社会科における情報を生かす産業の単元開発

愛知教育大学教職大学院 湊 悠希

(2) 地域のごみ問題について考える小学校社会科学習

ー第4学年「ごみはどこへ」の授業実践からー

宇多津町立宇多津北小学校 河野 富男

(3) 社会科入門期における地域と関わる体験活動の効果

ー2~3年後のアンケートと当時の学習状況の分析からー

江戸川区立大杉第二小学校 柳沼 麻美

(4) 小学校社会科授業における単元間で転移する概念的理解と自律的思考

ー5年生社会科地理の見方・考え方が他領域へ転移する学習デザインー

滋賀大学教育学部附属小学校 荻野 祐浩
花園大学 岸本 実

(5) 新聞を媒介とした相互作用と自己理解ー多文化共生を志向する新聞づくり活動を通してー

武豊町立緑丘小学校／兵庫教育大学大学院 氏家 拓也

自由研究発表Ⅰ・第2分科会

講義棟6号館201室

司会者 愛知東邦大学 白井 克尚
東海大学 内山 隆

(1) 社会科歴史学習におけるメディア社会の市民的資質と学習構成に関する検討

ーDIGの学習モデルとメディア系リテラシー論を手掛かりにー

名古屋市立八社小学校／立命館大学大学院 松本 卓也

(2) 1920年代の小学校における地域社会からの郷土教育

ー茨城県下高津尋常高等小学校の一坪農業に注目してー

筑波大学大学院 佐藤 美涼

(3) 地域教材をもちいて地域像を再構成する

愛知教育大学大学院 越田 萌花

(4) 歴史学習を視野に入れた社会科における「当事者性」概念の再考

ー小学校歴史学習における論争問題学習の実践を通じての一考察ー

宇都宮市立石井小学校 吉永 育未

(5) 第二次世界大戦と安全保障ー小学校社会科の学習指導を中心にー

愛知教育大学 保立 雅紀
愛知教育大学教職大学院 松岡 奏翔

司会者 埼玉大学 小貫 篤
愛知教育大学 玄 在均

(1) 児童の往還的思考を促す社会の重層性を意識した社会科授業開発

千葉大学教育学部附属小学校 中谷 佳子

(2) 社会を構想する力を育てる小学校社会科学習

－考察と構想を往還する三層構造の学習過程を通して－

千葉大学教育学部附属小学校 岩野 敬
千葉大学教育学部附属小学校 山本 修平
千葉大学教育学部附属小学校 小磯 友佑
千葉大学教育学部附属小学校 中谷 佳子

(3) 主体的に生き方をかじ取りする力を育む社会科授業の創造

－学ぶ責任に基づく学習問題の生成と事実に基づく協働的概念形成－

横浜市立小学校 野間 義晴
横浜国立大学附属横浜小学校 新垣 力嗣
横浜国立大学附属横浜小学校 比嘉 将来
横浜国立大学附属横浜小学校 柴田 基
横浜国立大学附属鎌倉小学校 岩本 賢一
横浜国立大学附属鎌倉小学校 松原 直紀

(4) 児童の価値判断は何を基準になされるのか

－5年生「食料生産」の対立構造を哲学的に考察する－

筑波大学附属小学校 粕谷 昌良

(5) 多様な立場から地域の将来を意思決定する社会科学習

－竹早公園・小石川図書館一体的整備基本計画を事例として－

東京学芸大学附属竹早小学校 上野 敬弘

(6) 小学校における生成AIを活用した探究学習および問題解決学習の授業構想に関する考察

常葉大学 木下 智実

司会者 茨城大学 木村 勝彦
宮崎大学 藤本 将人

(1) ノン・ヒューマンとのデモクラシー実現を目指す小学校社会科授業開発

－気候危機を取り扱った第6学年国際協力の単元開発を通して－

福岡市立七隈小学校 島 俊彦

(2) 持続可能な社会を創造する小学校社会科学習に関する研究

－第5学年単元「わたしたちの生活と森林」の授業開発を通して－

熊本市教育委員会 原口 琢哉

(3) 里山の教材化を通して探る社会の持続可能性に対する子どもの意識

東京学芸大学附属竹早小学校 恒川 徹

(4) 小学校社会科産業学習における経済的意思決定に関する認識形成

ー第5学年「米づくり」から中学校公民的分野への概念的接続可能性ー

名古屋経済大学 小田 和也
世田谷区立代沢小学校 横田 富信

(5) 生成 AI は小学校社会科における「思考の摩擦装置」となりうるか

ー第4学年「ごみの処理と再利用」における反対役 AI との対話経験と社会への関わり方の構想の探索的検討ー

開智所沢小学校 濱野 拓夢

自由研究発表Ⅰ・第5分科会

講義棟7号館211室

司会者 愛知教育大学・名誉／愛知東邦大学 土屋 武志
静岡大学 村井 大介

(1) グローバル化などの変化が進む社会を学ぶ小学校社会科学習

ー農業の情報化を通して持続可能な食料生産を考える単元開発ー

川崎市立南百合丘小学校 兼田 和明
横浜市立新吉田第二小学校 鳥山 陽子

(2) 社会参画を「自分ごと化」から「未来社会の構想」へと高める授業デザイン

ー第5学年「米づくりのさかんな地域～庄内平野～」の単元開発を通してー

浦安市立東野小学校 柳 圭一

(3) 名古屋市の初期社会科教育に関する歴史的考察

ー昭和20年代の小学生の「金銭のイメージ化」を中心にー

至学館大学 出井 伸宏

(4) 初等教育段階における金融消費者教育の学習プログラム開発研究

信州大学 田村 徳至

(5) 未来リテラシーを育成する小学校社会科授業開発

ージョン・アーリのモビリティーズ理論を手がかりとしてー

奈良教育大学 澁谷 友和

自由研究発表Ⅰ・第6分科会

講義棟7号館210室

司会者 東洋大学 中平 一義
東京未来大学 中澤 純一

(1) 高度情報化社会における「能動的な社会参画」へ導く経済学習

ー中学校公民的分野における、生成 AI とスプレッドシートを活用した「企業づくり」の実践ー

中野区立第二中学校 古田 一博

- (2) 中学校社会科におけるジェンダー教育の実践
 ー資料の読み取りから差別の構造に気付かせるー

大田区立出雲中学校 阿部 香名

- (3) 高等学校公民科「公共」における哲学プラクティスの応用可能性
 ー哲学する市民の育成をめざした社会科教育の実現に向けてー

自由の森学園 荻野 陽太
 静岡福祉大学 得居 千照

- (4) 「国民の生活と政府の役割」の指導の工夫ー主体的に学ぶ生徒の育成2ー
 ー社会的事象について生徒が自らの学習を創り、学習活動・振り返りを行うなどの学習過程の工夫をする生徒の育成ー

江東区立第二砂町中学校 仲村 秀樹
 中央区立晴海西中学校 種藤 博
 大田区立大森第六中学校 詰田 剛也

- (5) グローバル化などの変化が進む社会を学ぶ小学校社会科学習
 ー人口減少や少子高齢化等に対する政治の働きを宇都宮 LRT の事例から考えるー

江東区立八名川小学校 山田 ちひろ
 江東区教育委員会 松尾 美希
 国土館大学 秋田 博昭

自由研究発表Ⅰ・第7分科会

講義棟7号館311室

司会者 高千穂大学 鈴木 隆弘
 玉川大学 樋口 雅夫

- (1) 「熟議」から「社会行動」へとつなぐ社会科カリキュラムの構成原理
 ーBarton & Ho『Curriculum for Justice and Harmony』を手がかりにー

お茶の水女子大学 植原 督詞

- (2) ドイツ政治教育における子どもの「感情」の位置付け
 ー政治的判断力の形成との関係性をもとにー

愛知県立春日井高等学校 中山 智貴

- (3) リベラル・デモクラシーを支える価値を涵養する教育の考察
 ー「民主的文化の能力参照枠」のコンピテンスとディスクリプターに着目してー

帝京大学 五十嵐 卓司

- (4) 社会科公民的資質の实在性についての考察ーアクター・ネットワーク理論を視座としてー

山口大学 田本 正一

- (5) 「包括的性教育をめざす社会科教育」の理論的背景および理論的根拠
 ー世界の性教育政策の変遷と日本の性教育史を通してー

東京都立大崎高等学校 野呂 航平

自由研究発表Ⅰ・第8分科会**講義棟7号館310室**司会者 筑波大学 金 玟辰
千葉大学 阪上 弘彬

- (1) 新しい教科書は公害をどう描いているのかー現状分析とその課題を考察するー
同志社大学・京都教育大学連合教職大学院 森口 洋一
- (2) 中学校社会科地理的分野における持続可能な食料生産を考える授業開発
ー北海道地方の再生型農業を事例としてー
横須賀市立久里浜中学校 菊池 徹
- (3) 地理院地図を活用して地域の歴史を読み解く中学校社会科授業
ー早川町における信仰・生活・産業と「道」の関係に着目してー
早川町立早川中学校 望月 大
- (4) 災害の自分事化で地域住民の命を救いたい
ー地域防災力の向上に資する学校における防災教育との連携を目指してー
NIPPON 防災資産サポートセンター((一財)国土技術研究センター) 高田 昇一
- (5) わが国の戦後の地誌学習論の基本的考察ー中学校における地誌学習論の時代的考察ー
群馬大学・名誉 山口 幸男
- (6) 自然地理学における積雪を題材とした授業実践と成果
北翔大学短期大学部 菊地 達夫

自由研究発表Ⅰ・第9分科会**講義棟7号館309室**司会者 茨城大学 金久保 響子
関西学院大学 吉水 裕也

- (1) 防災学習での外部人材活用に関する基礎的研究
ー高等学校地理総合を視野にー
千葉大学大学院 高橋 奈那
- (2) 生徒が課題を自分ごととして捉える段階を重視する地域学習
ー高等学校地理総合「生活圏の調査と地域の展望」を事例としてー
茨城大学大学院 渡 龍大
- (3) 政策の構造的理解を促す地理総合の授業開発と実践
ー脱炭素社会の実現に向けた政策に着目してー
筑波大学大学院 南 亮輝
- (4) 地理総合におけるフィールドワークの実践と教育的意義
ー実施状況の分析と「生活圏の調査と地域の展望」の授業実践からー
筑波大学附属高等学校 中村 光貴
国立教育政策研究所 小関 祐之

- (5) 地理探究における真正の学びの授業実践研究
 ー大学入試問題を活用したパフォーマンス課題ー

兵庫県立星陵高等学校／立命館大学大学院 植田 啓生

- (6) 付属高校地理歴史科特設科目「社会科学入門」における高大連携授業の実践
 ー循環型社会形成に関わるシステム思考の定着に着目してー

専修大学松戸高等学校 泉 貴久

自由研究発表Ⅰ・第10分科会

講義棟7号館308室

司会者 東洋大学 須賀 忠芳
 東京学芸大学 日高 智彦

- (1) 高等学校歴史教育における哲学対話を用いた授業構想
 ー歴史における「責任」に着目してー

筑波大学大学院 割田 博斗

- (2) グローバル化などの変化が進む社会を学ぶ小学校社会科学習
 ー歴史あるまち並みを保護・活用し、新たなまちづくりに取り組む川越市の教材化ー

越谷市立越ヶ谷小学校 小野 優
 葛飾区教育委員会 田辺 留美子

- (3) ジグソー法を用いた学習活動の一考察
 ー19世紀アメリカ合衆国の奴隷制度を題材にした授業を例にー

埼玉県立久喜北陽高等学校 今 陽童

- (4) 韓国民主化運動と歴史教育ー「民主主義」を軸としてー

筑波大学 國分 麻里

- (5) 日韓比較歴史教育史における歴史教育学研究の新たな潮流と歴史教科書の波動
 ー2000年代の『歴史教育論集』の分析をもとにしてー

兵庫教育大学 福田 喜彦

自由研究発表Ⅰ・第11分科会

講義棟7号館307室

司会者 成蹊大学 二井 正浩
 岡山大学 山田 秀和

- (1) 中等歴史教育における powerful knowledge の援用ー探究学習に着目してー

筑波大学大学院 清水 翼

- (2) 世界史教育における3Dモデルの利用と教員による3次元計測
 ー3次元計測による考古資料の教材化の可能性とその方法を中心にー

東京大学教育学部附属中等教育学校 南澤 武蔵

- (3) 体系的に資質・能力を育成する「歴史総合」年間カリキュラムの構築
 ー改めて歴史総合の全体像を考えるー

山梨県総合教育センター 橋本 昌樹

- (4) 「満洲国」の学校教育における宗教信仰と国民形成
 ー漢族・モンゴル族・ロシア族の比較を通してー

愛知教育大学・非 松 婷

- (5) 戦後初期における米国コア・カリキュラムの情報受容の諸相
 ー倉澤剛によるヴァージニア・プランの解釈を中心にー

信州大学 篠崎 正典
 横浜国立大学 斉藤 仁一朗

自由研究発表Ⅰ・第12分科会

講義棟7号館306室

司会者 元・国土舘大学・客員 加藤 公明
 開智国際大学 山本 勝治

- (1) オーラルヒストリーの学習成果物における歴史叙述構造の分析
 ーAmerican Century Oral History Project を事例としてー

東海大学 藤井 大亮

- (2) 探究的な学びを促す歴史教育に関する課題
 ー諸外国での取り組みとIB教育を参考にした論点整理の試みー

開智国際大学 山本 勝治

- (3) 「問い」から始まり、その刷新（尖鋭化）をはかる歴史の授業

元・国土舘大学・客員 加藤 公明

- (4) 歴史意識の育成としての歴史的共感に関する研究
 ー「世界史探究」での「二次元的認知感情的概念化」モデルを用いた単元開発ー

目白大学・名誉 田尻 信壹

- (5) 日米親善「青い目の人形」教材を活用した授業実践の分析
 ー交流100周年を迎えるにあたってー

鳴門教育大学・名誉／名古屋学芸大学・非 西村 公孝
 名古屋学芸大学 兼子 明

自由研究発表Ⅰ・第13分科会

講義棟7号館305室

司会者 愛媛大学 駕原 進
 山梨大学 服部 一秀

- (1) 社会を担う「当事者」の育成ー価値判断を促す「問い」と「指導過程」ー

北海道教育大学附属旭川中学校 吉田 雅風

- (2) 世代間協同で培う「社会的利他」の教育の実践研究
 ー困難当事者を訪ねるField workの実践ー

東京経済大学 大滝 修

- (3) 水俣病公式確認から70年 水俣病にどのように向き合うべきか II
 ー次世代に語り継ぐため 今 私にできることー

帝京大学 古家 正暢

- (4) 社会科教育における戦後補償問題の取り扱いに関する研究

北海道教育大学釧路校 山元 研二

- (5) 平和教育における地球市民の概念についての考察(2)

都留文科大学 西尾 理

自由研究発表Ⅰ・第14分科会

講義棟7号館304室

司会者 鳴門教育大学 梅津 正美
弘前大学 小瑤 史朗

- (1) 社会の「歴史像」を批判的に読み解く授業の開発
ーパブリック・ヒストリーの視点からー

筑波大学大学院 福田 和輝

- (2) 中国の高校歴史教育におけるコンピテンシー・ベースの学習
ー歴史課程標準と教科書の分析ー

筑波大学大学院 鈴木 優衣

- (3) 中学校社会科における当事者意識を育む平和学習の授業開発ー「長野空襲」を題材としてー

信州大学大学院 塚田 敦哉

- (4) 人権教育の視座を踏まえた「困難な歴史」を扱う単元開発
ー単元を取り巻く多様な文脈に根差した研究者・実践者の協働ー

宮崎産業経営大学 小野 創太
京都市立久世中学校 弘田 真基

- (5) 正義を教えるー技法の探究ー

東京都教育庁 吉原 大貴

- (6) 地理・歴史の学びを公民につなぐ導入単元の開発
ーローカルな知の活用を通してー

愛知教育大学大学院 倉橋 喜祐

自由研究発表Ⅰ・第15分科会

講義棟7号館301室

司会者 宇都宮大学 熊田 禎介
岩手大学・名誉 今野 日出晴

- (1) 歴史を学ぶ意味を考え表現することのできる児童の育成を目指す小学校歴史学習
ー地域の人物や文化遺産への着目を通してー

阿久比町立英比小学校／愛知教育大学教職大学院 榊原 大貴

- (2) オーストラリアで「和解」はいかに語られているか？
ー先住民族に関するカリキュラム記述を中心にー

筑波大学大学院 土屋 うらら

(3) 歴史学習・歴史的分野における小中連携授業－昨年度の課題を踏まえて－

川越市立高階中学校 吉田 基
ふじみ野市立大井中学校 山本 雅敏

(4) 「広義の歴史教育」の研究領域化のために

－1980年代の生徒自主活動と陸軍登戸研究所調査－

都留文科大学 小川 輝光

(5) レリバンスの観点による冷戦期日本の歴史教育の再検討

－本多公栄・安井俊夫・黒羽清隆の歴史教育論を中心に－

香川大学 鈴木 正行

(6) 北海道179市町村悉皆調査にみる小学校社会科副読本のデジタル化の実態と課題

札幌国際大学 朝倉 一民

昼食・休憩

12:00～13:30

※お弁当をご予約された方は、受付にて参加証を示してお受け取りください。

受け取り時間は大会当日に受付場所での掲示でご確認ください。

評議員会

12:00～13:30

※講義棟6号館101室にて行います。

日本の社会科教育における ESD 実践の成果と課題

〔趣旨〕

2005 年から始まった「国連持続可能な開発のための教育の 10 年」以降、持続可能な開発のための教育の取り組みは世界各地で続けられています。日本の社会科教育の中でも、この 20 年ほどの間に ESD の概念が広く浸透し、現行学習指導要領に基づく各校種の検定教科書では、「持続可能な開発目標 (SDGs)」が取り上げられるようになりました。

2026 年現在、次期学習指導要領の改訂に向けた動きが進んでいます。予測不能で混迷を極める現代社会において、持続可能な社会のあり方を考えることの意味はますます大きくなっています。この間、数多くの ESD 実践が、様々な価値観が共存する多元的な社会の構築に貢献してきました。また、ESD 実践に関する研究も数多く蓄積されてきました。今日的な文脈の中で、これまで日本の社会科教育の中で取り組まれてきた ESD 実践の成果や課題を改めて捉え直し、今後のあり方を検討していく必要性が高まっています。

本シンポジウムでは、登壇者の先生方それぞれの立場からみた、これまでの社会科教育における ESD 実践の成果と課題についてご報告いただき、それらをもとに、今後の ESD 実践が目指すべき方向性について協議したいと思います。

コーディネーター： 横浜国立大学 鈴木 允

広島修道大学 永田 成文

コメンテーター：立正大学、筑波大学・名誉 井田 仁康

シンポジスト・テーマ

(1) 米国における「正義」を中核とする持続可能性教育の展開

－Just Sustainabilities と環境・気候正義教育の議論に着目して－

東京学芸大学 押井 那歩

(2) 多文化社会における ESD の再構

－他者表象から対話的知識形成へ－

東京都立大学 池口 明子

(3) 持続可能性を「仕組み」として認識する社会科 ESD

－「関係を読む」学習から「仕組みを点検する」学習へ－

国土館大学 神野 幸隆

(4) 中等社会科教育における ESD 実践の現状と今後の展望

－ESD の観点からの世界史教育内容の再構成に着目して－

阪南大学 祐岡 武志

休憩

16:00~16:15

総会

16:15~17:15

講義棟6号館101室

自由研究発表Ⅱ・第1分科会

講義棟6号館102室

司会者 植草学園大学 梅澤 真一
東京学芸大学・名誉 大澤 克美

（1）小学校社会科における子どもの中動態表現の考察

酒田市立亀ヶ崎小学校 渡邊 圭亮
山形大学 江間 史明

（2）「深い学び」を促す小学校社会科第4学年の単元開発
－「循環」「環境負荷」「持続可能性」を中核概念として－

山形大学 江間 史明

（3）「社会的な見方・考え方」の構造分析
－「社会のめがね」30項目の類型化を通じた教科内容論的検討－

桃山学院大学 宗實 直樹

（4）小学校社会科における関係づけ方略と主体的な学びの関連
－第4学年「多摩織」の学習におけるIEOモデル分析を手がかりとして－

世田谷区立山野小学校 長坂 光一郎

（5）社会科において「自律的な学習者」を育む「学習としての評価」の一考察
－第6学年「提案しよう！未来につながるまちづくり～西公園再整備計画～」の実践分析を通して－

福岡県教育庁福岡教育事務所／福岡教育大学大学院 井手 司

（6）小学校3年生がつくりだす熟議的な対話空間に向けて
－論争問題学習における発話の連りの分析を通して－

東京大学大学院 鈴木 愛乃
宇都宮大学 大脇 和志
お茶の水女子大学附属小学校 片山 元裕

自由研究発表Ⅱ・第2分科会

講義棟6号館201室

司会者 鹿児島大学 溝口 和宏
仙台白百合女子大学 呂 光暁

（1）人物の営みへの共感的理解を通して社会参画意識を高める単元構成
－3年「東京染小紋をつくり続けるHさんの仕事」の授業実践を通して－

青山学院大学 石井 正広
新宿区立天神小学校 田内 利美
新宿区立四谷小学校 日向野 彰久
新宿区立四谷小学校 吉岡 泰志

- (2) 人物の営みへの共感的理解を通して社会参画意識を高める単元構成
 - 6年「課題を乗り越えて世界の人々と共に生きる」の授業実践を通して -
 青山学院大学 石井 正広
 町田市立大蔵小学校 杉本 季穂
 新宿区立四谷小学校 島谷 直樹
 新宿区立四谷小学校 生井 香穂里
- (3) 重松鷹泰による問題解決学習の特質 - 富山市立堀川小学校の授業実践を通して -
 富山市立堀川小学校／早稲田大学大学院 政二 亮介
- (4) 社会参加型サービス・ラーニングのカリキュラム開発 (3)
 - 「立川歴史すごろく」の事例検討を通して -
 立川市立第一小学校 松本 武
- (5) 仮説を手立てにした学習者の自走を促す小学校歴史学習
 - 仮説を基に追究し、議論を通して考えを更新する学び -
 北海道教育大学附属札幌小学校 土岐 友哉
 北海道教育大学 星 瑞希
 北海道教育大学 村越 含博
- (6) グローバル化などの変化が進む社会を学ぶ小学校社会科学習
 - 官民連携による農作物の輸出拡大の取組から食料安全保障を考える -
 川口市立十二月田小学校 中山 美奈
 豊島区教育委員会 生沼 夏郎

自由研究発表Ⅱ・第3分科会

講義棟7号館103室

司会者 東京学芸大学附属竹早小学校 上野 敬弘
 筑波大学 國分 麻里

- (1) 小学校第3学年におけるまちづくり学習の授業開発
 - 創造的認知のモデルを援用した社会のつくり方に着目して -
 広島大学附属東雲小学校 原紺 政雄
- (2) 日本の技術を生かした「ものづくり」に関するカリキュラム開発
 - 子どもたちが求める楽しい遊具づくり -
 前・立正大学 石橋 昌雄
 板橋区立板橋第五小学校 西谷 秀幸
 新宿区立四谷小学校 生井 香穂里
 小金井市立小金井第一小学校 丸野 陽子
 板橋区立板橋第五小学校 北形 好子
 大田区立入新井第二小学校 八千代 歩
 北区立都の北学園 堀間 康平
 板橋区立板橋第四小学校 佐々木 彩羽
- (3) 事実的問いから価値的問いへの転換を促す小学校第5学年農業学習の授業構想
 - 有機農業を営む保護者を人的教材とした単元構成の検討 -
 妙高市立新井南小学校 星 雄馬

- (4) 判決書教材を活用した先住民族の権利に関する授業開発の研究
 ー中学校社会科における「北海道とアイヌ民族」の授業の場合ー
 北海道教育大学附属釧路義務教育学校 澤田 康介
- (5) 地域連携・社会参画型社会科授業における当事者意識形成の実践的研究
 ー小学校第4学年「地域の発展に尽くした先人の働き」の実践を通してー
 みよし市立三好丘小学校／名古屋市立大学大学院 森田 幸一郎
- (6) 教員志望学生のジェンダー意識調査ー社会系・小学校教職を中心とした質問紙調査の分析ー
 拓殖大学 荒井 雅子
 筑波大学 金 弦辰
 筑波大学 國分 麻里
 玉川大学 梅田 比奈子
 昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校 升野 伸子
 筑波大学大学院 熊本 秀子

自由研究発表Ⅱ・第4分科会

講義棟7号館104室

司会者 伊勢原市立成瀬小学校 井山 貴代
 大分大学 渡邊 大貴

- (1) 個別最適な学び・協同的な学びを実現する富山市立堀川小学校の教師教育に関する研究(1)
 ー広田積芳氏の実践者としての力量形成期におけるライフヒストリーー
 北海道教育大学旭川校 坂井 誠亮
 日本赤十字東北看護大学 高橋 純一
- (2) 個別最適な学び・協働的な学びを実現する富山市立堀川小学校の教師教育に関する研究(2)
 ー社会科授業観に基づく広田積芳氏のミドルリーダー・管理職期のライフヒストリーー
 日本赤十字東北看護大学 高橋 純一
 北海道教育大学旭川校 坂井 誠亮
- (3) 中学校社会科教師は「評価」をどのように捉え、実践してきたのか
 ーライフストーリーにおける「評価」の困難経験に着目してー
 筑波大学大学院 田宮 保孝
- (4) 社会と自分との関係を問い続けられる学習者を育てるための授業設計の在り方
 盛岡市立黒石野中学校 細川 遼太
- (5) 学習・探究のための資料収集指導の留意点
 ー大学初年次教育科目担当者としての経験をふまえてー
 鹿児島大学 渡邊 弘
- (6) 大学生の「問う力」の実態と講義における育成の試み
 ー生成 AI 時代における探究学習を見据えてー
 三重大学・非 井川 和道

司会者 愛媛大学 井上 昌善
大阪教育大学 峯 明秀

- (1) 高等学校公民科における宗教を題材とした「精神の自由」の涵養
－寛容概念と人権概念をめぐって－

信州大学大学院 滝沢 陸
信州大学 松島 恒熙
信州大学 野口 舞子

- (2) 高専における技術者倫理教育と公民科教育の関連－思考および思想史としての哲学－

信州大学 松島 恒熙
広島修道大学 嶋崎 太一
長野工業高等専門学校 川合 大輔
徳島大学 今井 洋太

- (3) 「公共」における倫理的ジレンマの克服と合意形成の授業開発
－功利主義・義務論を価値判断の枠組みとした避難所運営ゲーム（HUG）の実践から－

洗足学園中・高等学校 飯島 善章

- (4) 公共的な空間に生きる自立的な主体としての思考・判断力の育成
－「法や規範の意義と役割」における道徳観・倫理観からのアプローチ－

岐阜県立大垣養老高等学校 大橋 弘志

- (5) 弁護士が構成した法教育授業を教員志望学生はいかに再構成するか
－「アボカド問題」における「公正」の授業化過程に着目して－

秋田大学 加納 隆徳

- (6) 黙秘権の認識に関わる法教育実践研究

東洋大学 中平 一義
北海道教育大学函館校 野寄 雄太
春水法律事務所・神奈川県弁護士会 村松 謙
神奈川県立秦野高等学校 高橋 淳一

司会者 開智国際大学 大木 匡尚
東京学芸大学附属竹早中学校 内藤 圭太

- (1) 1960年代沖縄における郷土史教授－副読本『沖縄の歴史資料』をめぐる論争を中心として－

筑波大学大学院 清水 悠希

- (2) 歴史解釈に力点を置いた中学校歴史授業の実践－都市火災に関する史資料分析を例に－

兵庫教育大学連合大学院／荒井学園新川高等学校・上越教育大学附属中学校・非 佐藤 優一

- (3) 生成AIの活用と歴史教育－「遣唐使のなぞを追う授業」を通して考える－

奈良女子大学附属中等教育学校 北尾 悟

(4) 中学校社会科における 1955 年版学習指導要領改訂をめぐる 2 つの理念の相克

ーその新たな「総合」性の模索を中心にー

開智国際大学 大木 匡尚

(5) 観光を題材にした中学校歴史授業づくりー三つの単元を事例にしてー

同志社大学 柳澤 彰紀
大阪人間科学大学 金子 遥

(6) 高校歴史総合に接続するには中学校歴史はどうすべきか 3

ー中学歴史「冷戦」の実践からー

札幌大学 兼間 昌智

自由研究発表Ⅱ・第 7 分科会

講義棟 7 号館 3 1 1 室

司会者 上越教育大学 茨木 智志
宇都宮大学・名誉 溜池 善裕

(1) 教科書的知識はどのように問い直されるのか

ー藤岡人骨を教材とした縄文時代討論授業ー

栃木県立宇都宮中央高等学校 阿久津 祐一

(2) 実践者との対話を通した『考える日本史授業』再読の試み

ーゼミ卒業生と加藤公明氏によるオンライン・ゼミ企画を通してー

鹿児島大学 岩崎 圭祐
横浜市立小田中学校 高嶺 直己
千葉県立東金高等学校 山村 向志
栃木県立宇都宮中央高等学校 阿久津 祐一
法政大学第二中・高等学校 内田 圭亮

(3) 「歴史総合」時代の探究学習をどのように支えるか

ー人文学の視座・方法論を活用した歴史学習モデルの構築ー

常磐大学高等学校 丸小野 壮太
鎌倉学園中学校・高等学校 神田 基成
慶應義塾大学 榮谷 温子
日本女子大学 佐藤 育子
東京大学史料編纂所 竹田 和夫
筑波大学 土井 裕人

(4) 歴史教育における宗教学の視座・方法論の活用

常磐大学高等学校 丸小野 壮太
筑波大学 土井 裕人

(5) 歴史総合における「問い」から「本質」へ向けての自己調整サイクル

ー「主客転換のメガネ」と、生成 AI を活用した社会的共有調整 (SSR) の実践ー

昭和学院中学校高等学校 大廣 光文

- (6) 学習指導要領から「歴史総合」のあり方を考える
 - 暗記教科(科目)からの脱却を目指して -

元愛知県立高等学校 糸井 仁

自由研究発表Ⅱ・第8分科会

講義棟7号館310室

司会者

群馬大学 栗谷 好子
 筑波大学附属学校教育局 篠塚 明彦

- (1) 高等学校の歴史教育における歴史的思考の「方向性」に関する一考
 - 過去・現在・未来の視点を活用した6通りの方向性について -
 東京大学大学院 古川 剣士
- (2) 高校世界史における『歴史家の様に読む』アプローチの実践的検討
 - AI時代のジェンダー史学習を通して -
 愛知教育大学大学院 岩田 ゆず
- (3) 歴史叙述を通じた高校生の「同時代」認識の獲得と深まりに関する量的・質的検証
 - 日本史教科書のつづきを書く実践を通して -
 奈良女子大学附属中等教育学校 藤井 正太
- (4) 高校歴史系科目におけるSLAを応用した授業の効果
 - 確認できた非認知能力の向上・民主的な態度の育成 -
 追手門学院中・高等学校 木村 直哉
- (5) 世界史探究の課題と可能性 - 歴史総合／世界史探究／総合的な探究の時間 -
 筑波大学附属学校教育局 篠塚 明彦

自由研究発表Ⅱ・第9分科会

講義棟7号館309室

司会者

立命館大学 角田 将士
 北海道教育大学釧路校 山元 研二

- (1) 歴史的エンパシーの授業構成原理に関する一考察
 - 「社会科歴史」の史的展開を手がかりとして -
 京都市立久世中学校 弘田 真基
- (2) 高校日本史教育における女性の政治参加について
 - 参政権獲得運動とマスキュリニティの関係から -
 茨城県立牛久栄進高等学校／筑波大学大学院 石本 由布子
- (3) 小栗上野介をめぐるナラティブ
 群馬県立高崎北高等学校 森田 直樹
- (4) 中等歴史教育における戦後補償問題の授業開発 - 単元「泰緬鉄道」の場合 -
 筑波大学附属坂戸高等学校 渡邊 和彦
- (5) ドイツ歴史教科書における「歴史文化」に関する概念指導のコンセプト
 山梨大学 服部 一秀

自由研究発表Ⅱ・第10分科会

講義棟7号館308室

司会者 富山大学 岡田 了祐
福島大学 初澤 敏生

- (1) 小・中・高校社会科・公民科における「政治的分野」の系統性に関する研究
ー教科書記述の特徴と学習の連続性に着目してー
明治大学大学院 大和 亮太
- (2) 高等学校公民科における社会経済像を再構築する主権者教育
ーつながりや信頼を視点とする「公共」の授業を事例としてー
東京都立新宿山吹高等学校 杉浦 光紀
- (3) (テレビ)ドラマから社会科教育の可能性を考える
ー(テレビ)ドラマ「銀河の一票」と政治教育を中心にー
上宮高等学校 田中 智和
- (4) 高等学校「公共」における働き方をめぐる判断理由の維持と再編
ー選択の変化・自己認識・自由記述の比較を通してー
同志社香里中学校・高等学校 西村 克仁
- (5) 生活世界の再生産を支える公民科授業研究ー单元「政治を一步手前から考える」を事例にー
佐賀大学 江島 薫
- (6) 最適なエネルギーミックスを探究する中学校社会科公民的分野の授業
ーシミュレーションを活用した「トレードオフ」の理解を通してー
広島修道大学 永田 成文
三重大学・名誉 山根 栄次
皇学館大学 萩原 浩司
玉城町立玉城中学校 小暮 直也

自由研究発表Ⅱ・第11分科会

講義棟7号館307室

司会者 東京学芸大学 押井 那歩
東北学院大学 坪田 益美

- (1) 高校生が語る「国家」ーインタビュー調査からみた若者の国家観ー
筑波大学大学院 甄 卓榮
- (2) 中学校社会科〔公民的分野〕における「社会イノベーション」の視点を取り入れた授業開発
愛知教育大学教職大学院 佐藤 朝春
- (3) 中学・高校公民における宗教文化認識の自覚を促す学習に関する一考察
ー生徒の反応からみる他者理解の可能性ー
早稲田大学高等学院 原田 雄斗
- (4) 移民政策の吟味を通じた批判的多様性リテラシーの育成
就実大学 長田 健一

(5) 人工知能 (AI) に関連する学習指導－小中学校社会科、高等学校公民科の学習指導を中心に－
愛知教育大学 保立 雅紀

(6) 高等学校で「家族」をどう教えるか？－家庭科と公民科の間を埋める授業デザイン－
鳴門教育大学 井上 奈穂
筑波大学附属高等学校 福元 千鶴

自由研究発表Ⅱ・第12分科会

講義棟7号館306室

司会者 群馬大学 宮崎 沙織
宮城教育大学 吉田 剛

(1) 高等学校地理の必修化は、地理歴史間の力学に影響を及ぼしたか？
－移行4年目の高等学校教員と教員志望学生への質問紙調査をもとに－
京都教育大学大学院 石川 愛

(2) 高校地理歴史科における社会情動的スキルの育成方法－自己決定理論のまなざしから－
専修大学附属高等学校／筑波大学大学院 杉山 比呂之

(3) 日本地理を貫く課題を設定した中学校社会科学学習－地域の人口減少をテーマとして－
北海道教育大学附属札幌中学校 稲吉 隼人
北海道教育大学 星 瑞希

(4) 国際バカロレア小・中・高の地理学習における段階性を踏まえた中学校防災地理 ESD 授業の開発
香川大学 中村 光則

(5) 地理総合における「国際理解と国際協力」の学習到達点はどこか
－ラーニング・プログレッションズによる「国際理解」の射程－
筑波大学附属坂戸高等学校 今野 良祐

自由研究発表Ⅱ・第13分科会

講義棟7号館305室

司会者 鳴門教育大学・名誉／名古屋学芸大学・非 西村 公孝
宮崎大学 吉村 功太郎

(1) 中等歴史教育における平和学習の分析と考察－2000年以降の実践研究の整理－
広尾学園中学校高等学校 高瀬 邦彦

(2) へき地単学級における中学校社会科公民的分野展開部の単元開発・実践
－「現代社会の政治的な問題を倫理的に考えよう」の場合－
厚岸町立真龍中学校 佐藤 健翔

(3) 自ら問い、友と共に追求することを通して、深化・発展する学び
－歴史的分野及び公民的分野での授業を通して－
静岡学園中・高等学校 市川 重男

- (4) 学校資料を活用した高校生向け歴史学習プログラムの開発
 ー学校日誌・看護日誌・当直日誌の「ならべ読み」ー

弘前大学 大谷 伸治
 弘前大学 小瑤 史朗
 青森県立青森高等学校 金子 勇太

- (5) 戦後 80 年における「次世代の平和教育」の現状と課題を踏まえた教育実践の構築(2)
 ー長崎市を事例としてー

秋田大学大学院教育学研究科 外池 智

自由研究発表Ⅱ・第 14 分科会

講義棟 7 号館 304 室

司会者 岡山大学 桑原 敏典
 昭和女子大学 升野 伸子

- (1) 外国籍生徒が在籍する学級を担当する教師の社会科授業観とその形成過程

茨城大学 金久保 響子

- (2) 情報過多社会における主権者教育カリキュラムの構築と効果測定

ー選管・放送・新聞メディアと協働した「選挙報道と SNS」をめぐる大学生の意識変容ー

岩手大学 菊地 洋

- (3) 価値葛藤を通して「個人の尊重」はどのように捉え直されるのか

ートランスジェンダーのトイレ利用制限事例を用いた授業実践ー

専修大学 宮崎 三喜男

- (4) 多国間交渉シミュレーションを通じた市民的資質の形成

ー「私たちと国際社会の諸課題」における授業実践の分析ー

お茶の水女子大学附属中学校 寺本 誠

- (5) 社会科授業における存在としての主体性と応答責任の関係

ー中学校第 2 学年「ふるさとに生きる」の実践を事例にー

愛知教育大学 真島 聖子
 刈谷市立朝日中学校 伊倉 剛

昼食・休憩

12:00~13:00

※お弁当をご予約された方は、受付にて参加証を示してお受け取りください。

受け取り時間は大会当日に受付場所での掲示でご確認ください。

課題研究Ⅰ 高度情報化社会における事実の探究をいかに指導するか

講義棟6号館102室

〔趣旨〕

社会科教育はこれまで、いわゆる情報・記号操作の学習に留まることなく、深い学びの大きな基盤である事実認識の育成を重視してきました。ところが昨今、高度情報化社会の到来とともに誤情報やフェイクニュースが児童生徒の日常生活に浸透しています。これまで以上に、事実を見極める力の指導の必要性はさらに高まっています。今、どのようなリテラシーが必要なのかについて情報リテラシー、ニュースリテラシー、メディア情報リテラシー等々の知見を踏まえつつ、社会科での指導のあり方について考えたいと思います。

コーディネーター：愛媛大学 鴛原 進
東洋大学 中平 一義

- (1) メディア情報リテラシー理論の最前線
ー情報スキルから多元的リテラシーへー

法政大学 坂本 旬

- (2) 高度情報化社会における小学校社会科で重視すべき学び
ー教員意識調査と授業実践を手がかりにー

玉川大学 梅田 比奈子

- (3) SNS メディア利用対する大学付属高校生の実態、教育実践
ー実態と挑戦ー

立命館宇治高校 杉浦 真理

課題研究Ⅱ 単元づくりにおける「高次の資質・能力」を育む概念とは何か、いかに設定するか

講義棟6号館101室

〔趣旨〕

文部科学省では次期学習指導要領を「高次の資質・能力」を育む方向性で検討されています。現実社会の複雑化している社会的事象やその捉え（言説）について汎用性が高く、かつ「見方・考え方」も育む概念（用語等）形成がますます求められます。これまで社会科は生きて働く知、転移性の高い知を戦後一貫して追求してきました。その蓄積における成果と課題を踏まえて、「高次の資質・能力」を育む知（とりわけ概念を中心に）の具体的な内実や設定の在り方について考えたいと思います。

コーディネーター：山形大学 江間 史明
玉川大学 小谷 恵津子
指定討論者：京都大学 石井 英真

- (1) 場所概念に基づいて地域の変容を捉える小学校社会科地域学習
ー第3学年「市の様子の変り変わり」の実践を事例としてー

学習院大学 大矢 幸久

- (2) 小学校社会科における社会問題学習の概念習得とその活用
ー経済の概念に着目したまちづくり学習を事例としてー

武庫川女子大学 長川智彦

- (3) 実践共同体の視点から考察する「統合的な理解」を促す授業
ー中3歴史「日本の近代国家の成立を振り返る」を事例としてー

山形県教育センター 関東朋之

〔趣旨〕

“指導と評価の一体化”と連動した“単元をつらぬく問い”をいかに具体化するかという課題があります。教科内容のみに傾斜させると児童生徒の主体的な学びの保障が希薄化してしまうことがあります。主体的な学びを重視した問いだと、質の高い深い学びを育みにくくなる場合もあります。社会科が常に抱えてきた課題とも言えます。教科内容と学習者との結節点をもたらし問いはいかなる設定をすれば良いのかについて考えたいと思います。

コーディネーター: 国立教育政策研究所 磯山恭子
龍谷大学 中本和彦

(1) 教育内容の論理を軸に子どもの心理を接続する単元をつらぬく問いの設定

ー単元を通して「高次の資質・能力」を育むためにー

長崎大学 新谷 和幸

(2) 社会参加を志向した「単元を貫く問い」をどのようにつくるか

ー中学校社会科地理的分野「日本の諸地域」を事例としてー

埼玉県春日部市立武里中学校 小谷 勇人

(3) 単元を貫く問いと「授業観察の視点」を接続する試み

ー宗教単元を事例とした指導と評価の一体化ー

東京都立向丘高等学校 久世 哲也

課題研究Ⅳ 地域のダイバーシティに社会科教育（学研究）はいかに向き合うべきか？

：この地域に生きるわたしたち〈子ども・教師・地域住民〉と市民性

講義棟7号館103室

〔趣旨〕

近年、「ダイバーシティ」への社会的関心の高まりを背景に、社会科教育においても「ダイバーシティ」を掲げた実践や書籍が増加している。これらの議論では、国籍、人種・民族、性別、性的指向、性自認、障がいといった属性的な「カテゴリー」が主として取り上げられることが多い。こうしたカテゴリーに着目することには一定の意義がある。

しかしながら、社会科教育が実践される教室や学校、さらにはそれらを取り巻く地域社会そのものもまた多様な存在である。そこでは、中央ー地方、中心一周縁といった（コロニアルな）権力関係が、社会事象の現れ方だけでなく、地域住民の生活意識や市民意識にも重層的に作用している。また、学校教育において育成すべき資質・能力や市民像が中央集権的に規定されていることも指摘されている。このことは、地域に固有の社会的文脈や望ましい市民像、さらには地域固有の課題を、社会科教育（研究）の中でどのように位置づけるべきかという問題を改めて提起している。

以上を踏まえ、本課題研究では、地域における「ダイバーシティ」に社会科教育がいかに向き合うべきかを検討する。その際、中央ー地方、中心一周縁の関係に着目しつつ、ポストコロニアルな視点から社会科教育学研究の可能性を探索する。

コーディネーター: 横浜国立大学 齊藤 仁一朗
北海道教育大学札幌校 星 瑞希

(1) 芦別小学校における「地域をともにつくる子どもたち」を目指した教育実践

ー2000年代の旧産炭地を取り巻く状況と子どもの認識を出発点としてー

北海道教育大学札幌校 村越含博

(2) ローカルに生きる「変革的知識人としての教師」

ー北陸・富山における社会変革のロールモデルの実践ー

学校法人青池学園 AOIKE 高等学院南砺福光キャンパス長 吉田英文

(3) 福島から「変革者」を育成する社会科教育の在り方

ー福島から世界史を読み替える「グローバル・ヒストリー」としての歴史実践ー

福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校 林 裕文

課題研究Ⅴ 小学校教員養成における社会科の専門性のコアを探る

講義棟7号館104室

〔趣旨〕

昨年度の本課題研究では、教員不足など教員養成に関わる喫緊の状況を踏まえ、非専攻者を含む小学校教員養成における社会科の専門性育成の方向性について議論を展開しました。その結果、養成段階（特に大学、短期大学）の限られた教育課程の中でどのような能力を重点的に育成すべきかという、専門性の核（コア）を明確化することの必要性が浮き彫りとなりました。そこで本課題研究では、昨年度の議論をさらに発展させ、小学校教員が備えるべき社会科の専門性のコアとは何かを理論的・実践的に探り、今後の教員養成課程の在り方について議論を深めてみたいと思います。

コーディネーター：宇都宮大学 熊田禎介
千葉大学 阪上弘彬
玉川大学 樋口雅夫

(1) 小学校教員養成における社会科の専門性のコアと授業づくり

ー社会科における授業づくりの視点の養成ー

千葉大学教育学部附属小学校 相沢 俊介

(2) 「社会に開かれ更新されていくもの」としての社会科観の育成

ー小学校教員養成課程における社会科教育系授業への提案ー

島根大学 紙田路子

(3) 小学校社会科を担う教師の自律性を教員養成で如何に育めるのか

ー入職前であるからこそできることと大学であるからこそできることー

静岡大学 村井大介

大会関連情報

- (1) 大会参加費（不課税）※ 本学会は免税事業者のため、インボイス登録番号はございません。
一般会員: 3,500 円(事前登録)／4,000 円(当日受付)
学生・院生会員: 3,000 円(事前登録)／3,500 円(当日受付)
非会員: 4,000 円(事前登録・当日受付)

(2) 昼食

大会両日ともにお弁当（1,000 円、税込 8%）を事前予約にて販売します。当日販売は致しませんのでご注意ください。ご予約されていない方は大学構内近くにはスーパーやコンビニエンスストア等をご利用ください。

(3) 大会参加の事前登録について

- ①大会参加の事前登録は、6 月 1 日(月)から開始しております。本学会 HP の【大会参加(事前登録)申込フォーム】で事前登録と参加費の支払い(クレジットカード決済または銀行振り込み)を行ってください。事前登録と参加費の支払いの両方を終えて大会参加の申込が完了します。片方だけでは事前登録となりませんので、ご注意ください。
- ②登録終了後、「受付番号」が自動送信されます。自動送信メールが送られてこない場合は、申し込みフォームに記載されている連絡先までお問い合わせください。
※参加登録受付業務は株式会社コムラに委託しております。なお、事前参加申込受付期間終了後の参加キャンセルおよび返金への対応はいたしかねます。
- ③大会参加事前登録の締切は 9 月 14 日(月)です。事前登録期間が終了した後の参加キャンセルは、大会実行委員会 (E-mail: jass76kanagawa@gmail.com) に直接ご連絡ください。
- ④事前登録をされる場合、緊急時の連絡先メールアドレスをご登録ください。全国大会の中止等、緊急時の連絡をいたします。
- ⑤事前登録をされた方には、領収書・名札・発表論文集を、11 月初旬に、登録いただいた住所へ発送いたしますので入力に誤りがないようご注意ください。当日受付の方には大会当日に受付にてお渡しします。

(4) 発表について

- ①自由研究発表は発表 20 分、質疑応答 10 分の計 30 分です。発表者、司会者共に時間厳守にご協力ください。
- ②当日発表資料を配布される場合、自由研究発表は 70 部以上、課題研究発表は 100 部以上をご用意の上、発表当日にご持参ください。なお、大会実行委員会宛での発表資料の送付はお断りいたします。また、発表資料が不足した場合、大会実行委員会での増し刷りもお断りいたします。
- ③発表会場にはプロジェクター、スクリーンが備え付けられております。パソコンは備え付けがありませんので、各自ご準備ください。
- ④自由研究発表の会場は、両日ともに 8 時半に開場いたします。接続や動作のチェックは開場から 9 時の開会までの間の時間か、各自の発表時間内をお願いいたします。
- ⑤プロジェクターとの接続は HDMI ケーブルのみ可能です。PC に HDMI 出力がない場合は、必要な変換アダプターを各自ご準備ください。

(5) 無線 LAN システムについて

会場では eduroam(無線 LAN システム)をご利用いただけます。勤務校等で ID の取得をしてご参加ください。

(6) 書籍販売について

講義棟 7 号館 201 室と 202 室では出版社による書籍販売がございます。

(7) 会場アクセス

キャンパス内の駐車場はご利用になれません。できる限り公共交通機関のご利用をお願いいたします。詳細は横浜国立大学HP「アクセス案内」にてご確認ください。

<https://www.ynu.ac.jp/access/>



【バスと徒歩：横浜駅西口ロータリーからバスを利用】

横浜市営バスか相鉄バスをご利用し、「岡沢町」で下車いただくと正門までおよび会場までの経路が比較的にわかりやすいです。「岡沢町」から会場受付までは徒歩約 10 分程度です。大学構内への乗り入れバスは土日には運行しておりませんので、ご注意ください。

【電車と徒歩：横浜駅→最寄駅→横浜国立大学】

①横浜市営地下鉄

横浜駅→三ツ沢上町→（徒歩約 16 分）→正門→（徒歩約 10 分）→会場

②相鉄線（各駅停車）

横浜駅→和田町駅→（上り坂を徒歩約 20 分）→南・南通用門→（徒歩約 5 分）→会場

* 羽沢横浜国大駅から西門・北門経由で会場へ（徒歩約 30 分）というルートもありますが、大学構内に入ってから会場までがわかりにくいので、ご注意ください。

(8) 全国研究大会参加時の保育費支援制度について

本学会では、全国研究大会参加時の保育費支援制度があります。制度規定および利用申請書は本学会の web サイト(http://socialstudies.jp/ja/about_notice.html)よりご確認ください。お申込みの場合は、大会事務局ではなく学会事務局に直接お申込みください。

(9) 問い合わせ先

住所: 〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-2 横浜国立大学教育学部

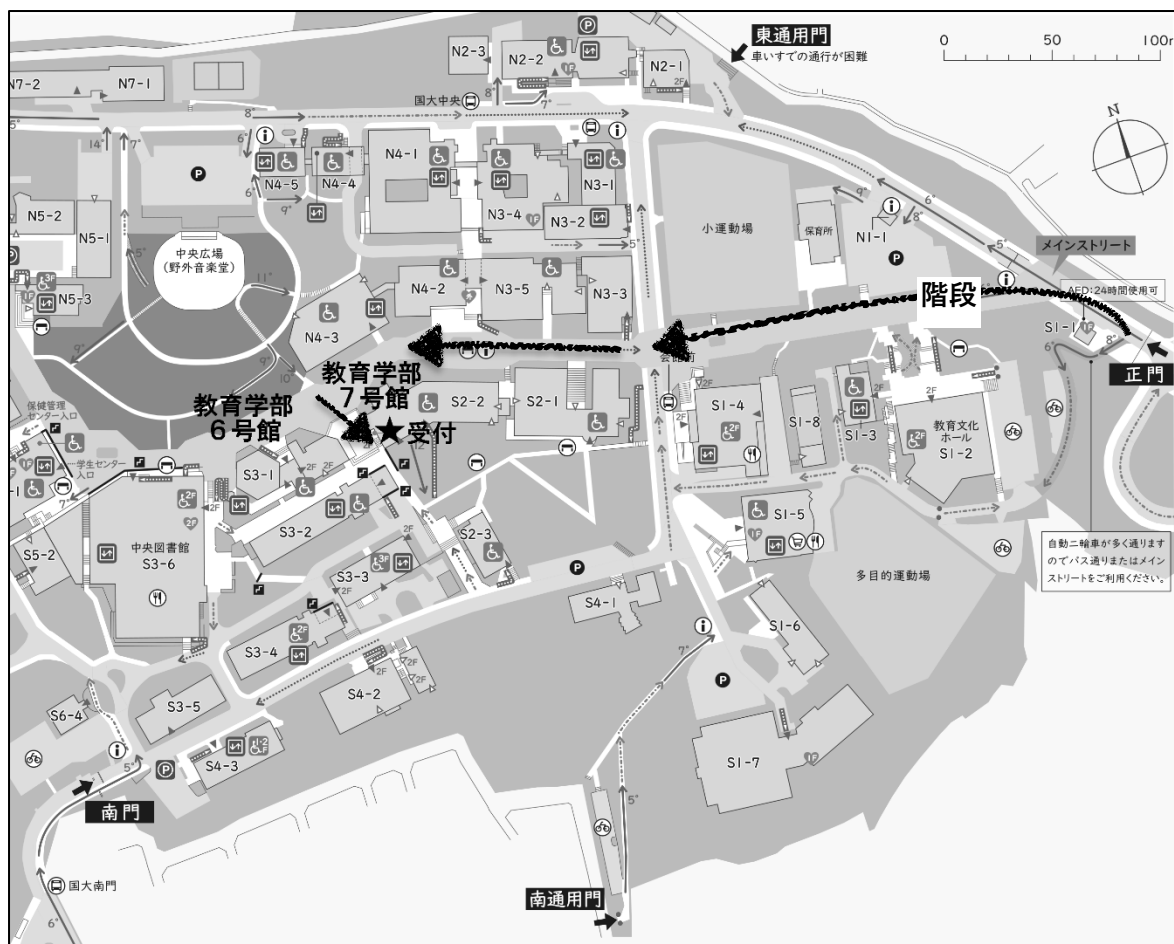
日本社会科教育学会第 76 回全国研究大会実行委員会

E-mail: jass76kanagawa@gmail.com

※お問い合わせ等は、メールにてお願いいたします。

【会場案内図】

・会場（教育学部講義棟6・7号館）へのアクセス



＊ 横浜駅・三ツ沢上町駅方面から「岡沢町」バス停までお越しになりましたら、バス停すぐの歩道橋を渡り、大学キャンパス方向に進んで頂くと、ウッドデッキの階段があります。階段を上っていただくと正門に到着します。

＊ 事前参加登録がお済みの方は、受付は不要です。直接、下記会場の教室へお越しください。

自由研究発表 (両日とも)	第1分科会	教育学部講義棟 6号館 1階
	第2分科会	〃 6号館 2階
	第3・4分科会	〃 7号館 1階
	第5・6分科会	〃 7号館 2階
	第7～15分科会	〃 7号館 3階
シンポジウム・総会	〃	6号館 1階
課題研究Ⅰ・Ⅱ	〃	6号館 1階
課題研究Ⅲ	〃	6号館 2階
課題研究Ⅳ・Ⅴ	〃	7号館 1階

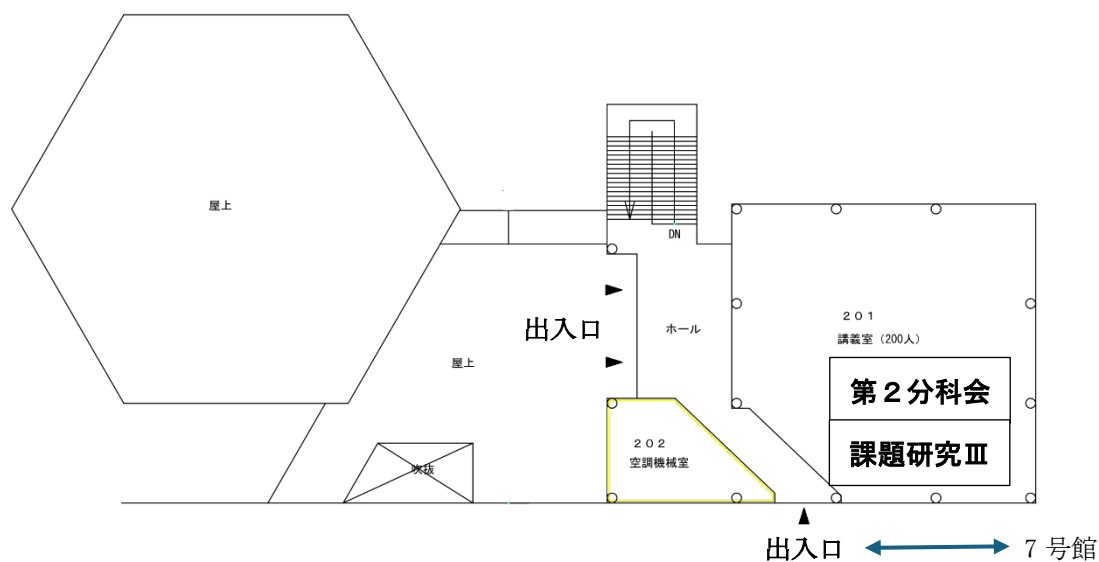
＊ 当日参加申し込みをされる方は、教育学部講義棟7号館1階の受付にお越しください。

・会場案内

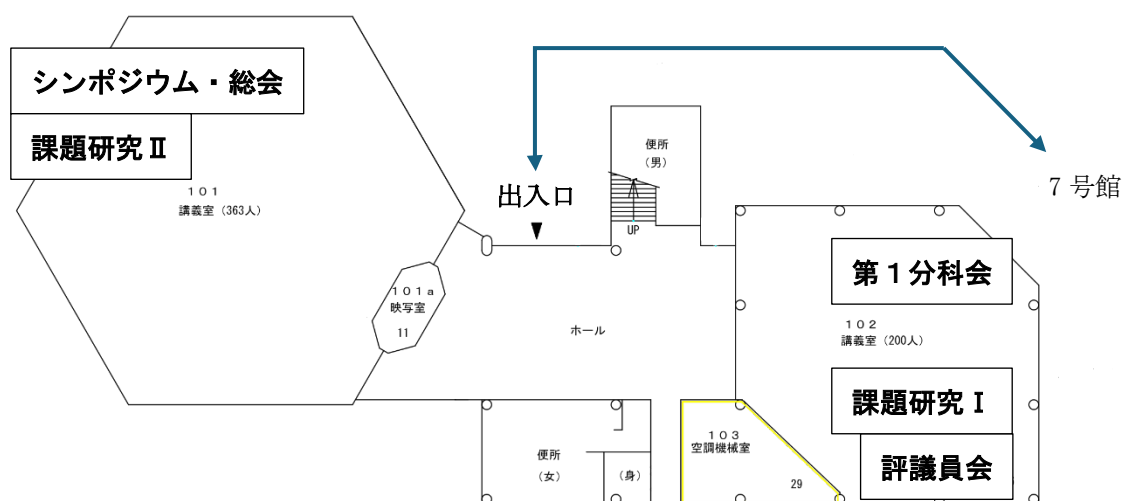
自由研究発表分科会は、両日とも同じ教室です（「第〇分科会」と示された教室です）。

【教育学部講義棟6号館】

〔2階〕



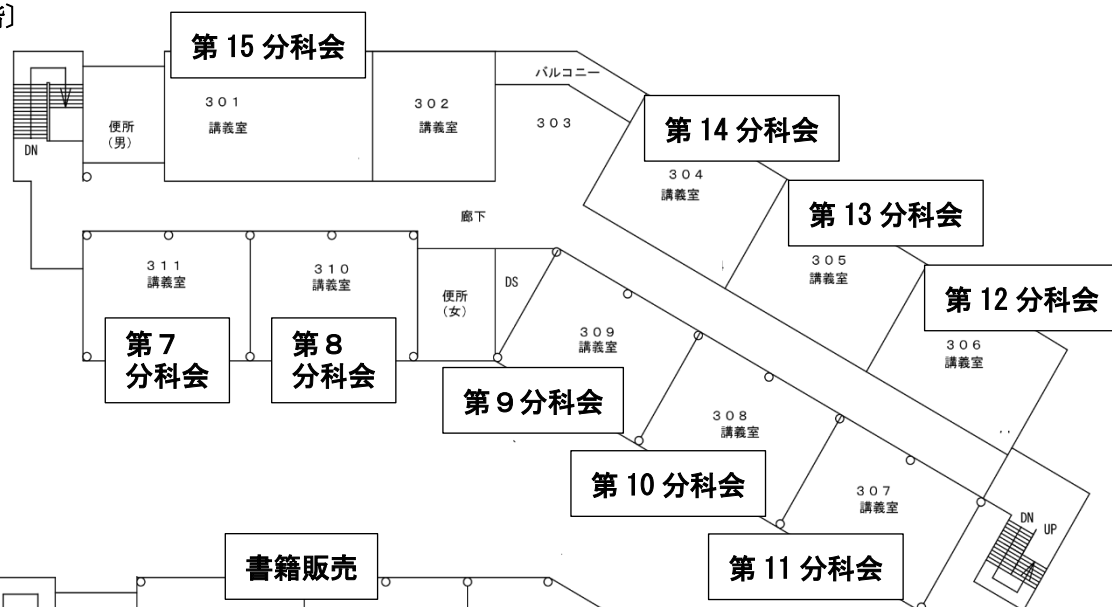
〔1階〕



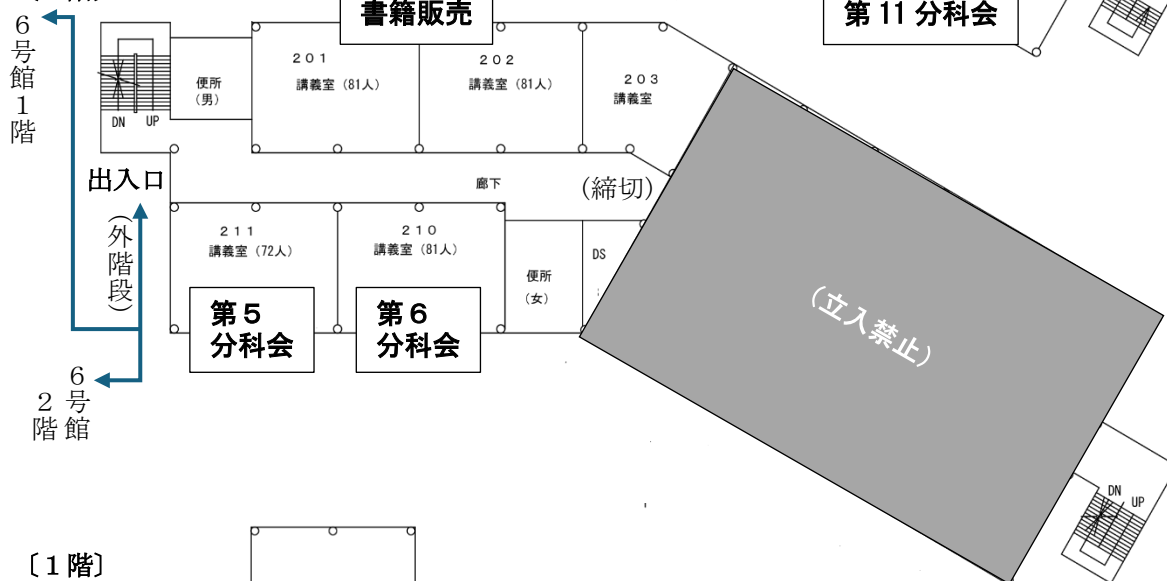
＊教育学部講義棟6号館と7号館の間の移動は、屋外に出て階段を通る移動となります。

[教育学部講義棟 7号館]

[3階]



[2階]



[1階]

